

神高速道路がバタバタと倒壊、大型バスが落下しそうになっている映像や、早朝の朝食の準備などによる火災の発生、延焼の映像など映画ではないかと見間違えるほどであり、近畿圏の広域が大きな被害を受けました。その後、3月20日オウム真理教による地下鉄サリン事件があり、当時大蔵省の職員にも被害を受けた職員がおりました。そのような中、当時は財政計画を担当しており、予算委員会に財政の中期展望という予算審議の参考資料を提出したばかりで、その後、阪神・淡路大震災復興計画を担当することとなり、連日連夜、各省庁調整、国会答弁作成など、よく死ななかつたなど今でもゾッとします。

1996（平成8）年に橋本龍太郎内閣が発足し、1997（平成9）年4月から社会福祉を充実させるとして消費税が5%に引き上げられました。その頃は、空港、港湾、漁港、林野を担当し、阪神・淡路復興計画で定めた神戸空港の新設などの公共事業予算の査定にあたりました。

1997年7月タイのパーツ暴落に始まったアジア通貨危機は、アジア金融危機につながり経済危機となりました。日本では、融資焦付きが多発し、緊縮財政と消費税増税のタイミングが重なるなどの影響により、11月に拓銀（北海道拓殖銀行）が巨額な不良債権を抱えて戦後初、都市銀が経営破綻し、1998（平成10）年10月に日本長期信用銀行の破綻と国有化、12月に日本債券信用銀行の国有化へと繋がり、景気回復を最優先するため歳出削減策を基本とした財政健全化目標を定めた財政構造改革法を停止しました。その頃は、主計局職員の人事を担当しておりました。

1998（H10）年には、真偽は定かではありませんが、いわゆる大蔵不祥事の発覚を端緒として、強大すぎる大蔵省の権力を削ぐことを目的として？財金分離が行われ金融監督庁が設置されました。2000（平成12）年に金融庁に改組され、完全に大蔵省から金融・証券の分離がされました。当時は、総務課で予算総括担当として、翌年2001（平成13）年1月に行われた中央省庁再編に関する予算・組織面での調整を仕切っておりました。

なお、この年は、9月11日にイスラム過激派テロ組織アルカイダによるアメリカ同時多発事件により重大な被害を受けました。その後は、アフガニスタン紛争が勃発し世界規模での対テロ戦争がはじまりました。

本日は、ここまでとさせていただきます。また、この続きは機会がありましたら、お話しさせていただきます。

花里 浩会員 株式会社 パレスエンタープライズ 2024年4月15日入会

私は1961年1月11日生まれ、現在63歳です。生まれは東京都中央区月島で、今はもんじゃ焼きが大変有名になっている下町で生まれました。

小学生の頃は、まだ地下鉄がなく、路面電車の都電が走っていた頃ですので、お小遣いがたまると都電に乗って銀座のデパートの屋上にある小さな遊園地のような場所に遊びに行ったことが記憶に残っております。そのころ実家は飲食店を営んでおり、今こうしてホテルというサービス業で仕事をしているのも、そのことがきっかけだったかもしれません。

その後、ホテルの専門学校を卒業し、1983年に東京の丸の内にある「株式会社パレスホテル」に入社致しました。まずは宴会サービスに配属され、次に宿泊のベルボーイ、フロントレセプションを経て宿泊予約を経験いたしました。約16年、宿泊部門に携わり2000年に販売促進部、営業企画課に配属されました。

今後ホテルではインターネット予約が主流になるだろうということでホームページを含めインターネット関係の仕事をしておりました。今はもうなくなりましたが、「旅の窓口」というサイトが主流だったと思います。

その後、宴会予約、再度、宿泊部門を経験し2009年に



「パレスホテル」が建て替えの為にクローズになり、姉妹ホテルの九段下にあった「ホテルグランドパレス」に出向致しました。

翌年に開業準備室に復帰し2012年5月開業を迎えました。開業までの準備期間、そして開業後の運営は私を含めスタッフ全員が初めての事ばかりで、旧パレスを超える、より良いサービスの提供、そしてお客様の心に残るホテルになるよう一丸となって邁進してまいりました。

そして2年後、この経験を生かすべく「パレスホテル箱根」の責任者を任されることとなりました。赴任した当初は東京と箱根の環境が全く違う為、また習慣や価値観も多少異なるので戸惑う事もありました。教えてもらう事も多い中、現地のスタッフとコミュニケーションを図りながら、お客様のニーズに合わせた、より良いサービスをご提供できるように取り組みました。

お陰様でお客様も増えてきましたが、そんな中2015年6月に大涌谷で噴火が発生。私たちのホテルは立ち入り規制がひかれた2kmのほんの少し先、200メートルほど範囲外であったため営業可能ではありませんでしたが、温泉の供給が停止し、代わりに宅配温泉を利用するなどしました。規制範囲外とは言えご予約のキャンセルもあり、かなりのダメージを受けることとなりました。噴火のたびの地鳴りと共に揺れもあり自然の恐ろしさを感じました。その後、噴火も落ち着き日常を取り戻してまいりましたが、そんな折、香川県の直島にある「ベネッセハウス」と言うホテルのサービスの見直しをするべく、そのマネージメントを競うコンペが行われ、パレスホテルが選ばれ、出向することとなりました。

「ベネッセハウス」は、瀬戸内海の小さな島々の中の一つ直島に建つ、美術館とホテルが一体になった宿泊施設です。著名な建築家の安藤忠雄氏が設計を手掛けた4つの宿泊棟からなり、それぞれにコンセプトが異なるアートな空間の中で“自然・建築・アートの共存”と、感性豊かな滞在を楽しむことができる施設です。また、島全体がアートに囲まれ、草間彌生さんの『南瓜』やクロード・モネの作品も楽しむことができます。一度ご宿泊されることをお勧めいたします。因みに当時は宿泊者の8割が外国人で、日本より海外での知名度が大変高い場所でした。

そして直島の「ベネッセハウス」で約2年間務めたのち、2018年11月に「パレスホテル大宮」に着任致しました。一時は新型コロナの発生でホテル業界も苦境に立たされることありましたが、今はこうして皆さまにご利用いただいております。これからもご満足いただけるよう、頑張っていきたいと思っております。

スマイル報告

■副SAA 福村 典子

